

同志社大学

2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年 3 月 1日提出

所 属	職 名	氏 名
経済学部	教授	中 尾 武 雄
研 究 題 目	経営者持株規模が企業価値に与える影響について	
研 究 成 果 の 概 要	<p>研究目的は、経営者の持株規模が企業価値に与える影響について統計的に分析することであった。経営者が株を保有することは、株主あるいは企業との一体感を高め、所有と経営の分離で生じるエージェンシーコストを小さくするという仮説が一般的である。ところが、経営者の持株規模が大きいことは、経営者の資産が大きいことを意味するから、労働供給理論の所得効果と同じで、経営者の努力度を低下させる可能性もある。そこで、この研究では、経営者の持株規模が大きいことが企業価値を高めるかどうかを、主として NEEDS-CD ROM『日経財務データ』を用いて分析した。この研究は、「輸出、研究開発、広告、株主構成と企業価値－直接効果と配当を通じて与える効果の総合的分析－」『経済学論叢(同志社大学)』60巻(2009年)及び「経営者が企業価値に与える影響と経営者報酬の関係」『経済学論叢(同志社大学)』63巻(2011年)の両論文で行われた分析を発展させるものとなるため、これら論文の理論モデルや推定モデルを拡張する方法をいくつかの角度より試みて、後者論文での結論の確からしさを再確認できた。得られた結論を要約すれば、役員持株比率が果たす役割は、役員の経験などに比較すれば、非常に小さいということである。言い換えれば、日本の経営者は、自分の経験で得た能力に応じて企業の利潤最大化に貢献しており、持株比率の高低はほとんど影響を与えないという結論であった。</p>	